

岩手県公立学校退職校長会

# 盛岡会だより

第228号



■発行年月日：令和8年1月1日（木）  
 ■発行：岩手県公立学校退職校長会盛岡地区会  
 ■事務局：☎020-0108 盛岡市東黒石野  
 ■印刷所：(有)セーコー印刷 盛岡市下ノ橋町2-23

代表 吉川 健次

TEL 019 (651) 3606

## 頂いた財産を活かす

～NIEからNIDへ～

第12班 川村 久子

「あゝ面白かった。」「頭をすごく使った。」「脳が若返った。」「写真の迫力を感じた。」「自分の新聞ができた。」「他の人の発想が面白い。」

老人クラブで『自分紙』作りをした後の感想です。新聞の読み方を変えて、気になる「見出し、写真、広告」だけを選んで、用紙にレイアウトして貼り、自分の言葉も添えます。テーマ（例・祭り、紅葉、大谷さん、環境等）を決めると更に、探すことに面白さが増します。完成し作品を掲示し、切り抜いた言葉などを基に選んだ気持ちを話し合います。

地域の「セーター祭」に出展すると、それを見た他の老人クラブの方が興味を持ってくださり、要望があつて出向きました。

盛岡ゆうゆう大学の地域校では『回し読み新聞』も実施しました。気に入った記事を2・3枚切り抜き、

グループの中でその記事の概要と選抜した理由を述べ、回していきます。聞き合っているとお互いの興味関心事が伝わり自己紹介にもなります。

このようなことをしている時「NID認知症予防に新聞を」の論文に出会いました。シニアに新聞活用は適しているという裏付けをもらいました。認知症予防キャンペーンのプランとして、活字を習慣的に読む・書く・話すことや社会とのつながりを持つこと、今までと異なる見方・考え方をグループで話すことが挙げられていました。ま



た、脳科学者の川島隆太先生が、他者とコミュニケーションをとることで脳の前頭前野が刺激され、血流が良くなるという実験結果を出しています。

見出しと写真に視点を持ち、いつもと異なる読み方が脳を刺激することは、実践しているシニアの方々も実感しています。『回し読み新聞』で、グループ内で話し合うことは社会とのつながり、知的習慣にもつながります。

このように、今私ができるのは現職時に学級作りの新聞作りという趣旨に惹かれて学級・学校・学習新聞作りに取り組み、退職後もNIE協議会に携わり、親子新聞教室も担当し、勉強の機会を幅広く頂いたお陰です。子供たちに読解力、情報活用力、社会性等の力を付けたいと先輩・同僚の先生方と切磋琢磨研究し、そこで頂いた財産があつたればこそ今の活動ができています。

子供・親子の次は生涯学習としてシニアにも有効ではないかと思っている時、ありがたいことに盛岡ゆうゆう大学・老人クラブにその場を頂きました。「何をすればよいかわからない。」等の声に不安にもなりましたが、周囲を見て徐々に作業を進める姿にほっとすると共に、学びを交流することが学習力を高めると実感しました。

学ぶ意欲を持つ嬉々とした姿、笑顔でおしゃべりしながら作業する姿に私自身の脳が活性化します。次は、どんな仕掛けをしようかと生活の中にアンテナを張り思案します。こんなに続けるとは思ってもいませんでしたが、「できた。楽しかった。またやりたい。」と返してくださるシニアの笑顔はあの当時の子供たちの笑顔と重なり、私をゆき振り励ましてくれます。

NIE : Newspaper In Education  
 NID : Newspaper In prevention of Dementia

# 令和7年度 研修・慶祝会盛大に開催！

■日時 令和7年11月15日(土) 13時30分～17時00分  
 ■会場 サンセール盛岡 参加者 31名  
 ■講演 演題 「人生100年時代 ～こころ豊かに生きる～」  
 ～百寿者たちの知恵と経験に迫る～

講師 盛岡市愛宕山老人福祉センター所長 高橋 昭三氏

## 1 はじめに

会員の一人として最近思うことや愛宕山老人福祉センターに勤務し、福祉推進会にも所属して民生委員や地区老人会の方々とも協力をして活動していますので、その中で感じていることをお話しさせていただきます。

今日のテーマは人生100年時代・・としましたが、全国では100歳以上の方が9万7千人以上お元気で過ごされています。

愛宕山老人福祉センターは、盛岡では第1号の老人センターで中央公民館内にあります。利用者の平均年齢は82歳。最高齢は94歳。活動している方たちは朝9時には活動ができるように8時半に玄関先に並ぶ方もいて、やる気があります。詩吟や麻雀等いくつかのサークルがあります。例えば、麻雀は男性7名女性9名ですが、朝9時から



らの時間割を作りながら、生き生きと活動をしています。老人センターは教育振興運動を考案した第16代盛岡市長の工藤巖氏が全国で最下位だった岩手県の

平均寿命(65歳)をまずは県都盛岡で延ばし、老人がよりよく長生きできるようにと考え、小学校区に、町内会長と民生委員と老人クラブの3者連携で福祉推進会を作り、高齢者福祉の

ための町づくり宣言をした後に一つずつ作っていったそうです。現在盛岡には同じような施設が32か所ありますが、全国的にも珍しく、工藤氏の先見性と発想には感謝をしています。

## 2 講話

### (1) 100歳まで生きたいと思う社会を作ろう

「あなたは100歳まで生きたいですか？」という調査で日本人が肯定したのは約26%しかなく、「長生きして迷惑をかけたくない」と考える人が多いようです。

「長生きしたいと思える社会とは？」との調査では、「幸せそうに見える人」ほど、100歳まで生きたいと回答する人が多いことから、「幸せな100歳」や「幸せな長生き」を体現している人にスポットライトを当てることで、100年人生を前向きに捉える人を増やしていくことができるのではないかと考えています。幸せそうな100歳を見てみると、肯定的になるので、皆さんも是非、お手本になって欲しいと思います。

### (2) 元気に満ちた方々に学ぼう(事例紹介) その1 108歳現役理容師(栃木)

箱石シツイさん  
104歳で東京オリンピック聖火ランナーとな

る。

### \*長寿の秘訣

毎日歩くこと、起床後は30種類の体操粗食を好む、薬草茶を飲む、戦死した夫が帰って来るのではないかと希望を持っている。

\*モットー「いつも機嫌よく、考えすぎない、悩まない」

### その2 夫婦そろって101歳 こりやめでたい

◇夫 津曲卓志さん(鹿児島) 多趣味

◇妻 津曲卓志さん(鹿児島) 多趣味

・99歳で免許返納  
 ・養蚕・養豚からイチゴ・メロン栽培へ移行。今もトラクターで畑の芋を掘り起こす。

・87歳でパソコン通信講座を受講。目的は土官学校時代の同級生への手紙の作成やネットのニュースや気になる話題の検索のため。

◇妻 律さん 健康の秘訣は食事

・自家大豆の豆乳・ヨーグルト・野菜スープ作り。料理教室に通う(チーズ料理等)。

・着物を縫ったり裁縫を教えたりしている。

その3 101歳奥州市真城の鈴木信雄さん

・戦後は競馬の騎手

・稲作「米作りは使命」今でも米1.5ヘクタールを作り続けている。「米作りは毎年反省がある。来年こそは良くしようと思う」

その4 92歳マクドナルド店員 本田民子さん

25年間在籍。67歳の時に娘の余命宣告を受け、娘の医療費と孫の学費のため働き始めた。週4日朝8時半から清掃業務。バスを2回乗り継いで通勤(83歳まではバイク通勤)。

「働くことが生きがい！」

\*長寿の秘訣

「ねば納豆」を毎食摂取、積極的に歩き

毎日20回の腕立て伏せ、ひ孫とサッカーや

体操も楽しむ、働くことへの感謝が元気の源。

・使命感「100歳までは仕事を続ける」  
その5 75歳以上が従業員の会社「うきのは

の宝」(福岡県)代表 大熊充氏(44歳)

高齢者に生きがいと収入を創る新ビジネス  
・ばあちゃんによる食品製造販売「ばあちゃん飯」、  
「ばあちゃん新聞」の発行、講演セミナー、  
YouTubeチャンネル「ユーチュー婆」  
(3) 朝ドラは面白いね「あんばん」

94歳まで現役で活躍された「アンパンマン」の原作者やなせたかしさん(94歳で永眠)  
漫画家・絵本作家。晩年まで精力的に創作活動。東日本大震災には被災地を応援。  
\*最後まで現役で活躍された秘訣

①人を喜ばせることへの情熱・生きる活力

②常に新しいことに挑戦する冒険心  
漫画、絵本、詩、作詞など多岐にわたる分野で才能を発揮。好奇心と冒険心を持つ!

③病気を楽しむ前向きな考え方

(4) まとめ 健康長寿の秘訣は何?  
東京家政大学名誉教授NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長 樋口恵子氏(92歳)の著書「90歳になっても楽しく生きる」では「3つのシヨク」①「食」②「触」(人とつながること) ③「職」(仕事を大切に)

が長生きの秘訣だと記してあります。

人生100年時代、輝き続けるために、いかに生きるかを共に考えてきました。元気な先輩たちから学んだことは、

①目標をもち、社会と繋がること

②新しいことに挑戦し学び続けること

③家族や地域との絆を大切にすること

④家族や地域との絆を大切にすること

という事です。長生きの秘訣について4分間のAIの回答も紹介します。(省略)



講演会後、会場を移して42名の参加者のもと、今回参加された11名の慶祝者の皆様の記念写真撮影があり、熊谷雅英厚生部長と鳥羽真喜子理事の進行により菅原壽副会長の開会の言葉でスタートした。

吉川会長は、挨拶の中で今回は上寿の方1名、米寿の方が7名、喜寿の方が11名、叙勲



(後列) 菊池市高様 成田春江様 岩田俊雄様  
小沢一昭様 吉田妙子様 熊谷幸一様  
(前列) 木村幸治顧問 吉川健次様 千葉廣様  
山内昭様 佐瀬壽朗様 小山尚元様

の方が5名おられること、米寿・喜寿の方がお生まれになった年の出来事を紹介され、それぞれの時代を生き抜き今日の日を迎えられることをお祝いし、さらに叙勲の方々に受章の祝意を表した。

続いて熊谷厚生部長の慶祝者・叙勲受章者の紹介があり、吉川会長からご出席の方々に賀詞・記念品等の贈呈がなされた。

○米寿：佐瀬 壽朗氏、千葉 廣氏  
小山 尚元氏

○喜寿：菊池 市高氏、小沢 一昭氏  
成田 春江氏、吉田 妙子様

○叙勲：山内 昭氏、吉川 健次氏(会長)  
米寿の三人の方々はそれぞれこれまでのことを振り返り、今後も健康づくりに留意して過ごし子どもたちの健全育成にも努力していきたい旨話された。喜寿者を代表して小沢一昭氏、叙勲受章者を代表して山内昭氏からお礼の言葉があった。

祝辞は盛岡市教育委員会教育長多田英史様代理の教育次長兼学務教職員課長高橋長兵様から頂戴した。

盛岡市小学校長会副会長齋藤研一様の乾杯に続き歓談となり、7テーブルの会場で、参会者皆さんが思い思いに場を移してお酒を酌み交わし、それぞれの話で会は大いに盛り上がった。

今回も歌の伴奏は西郷晃氏にお願いし、「乾杯」「青い山脈」「ふるさと」をギターの伴奏に合わせて元気に楽しく斉唱した。

最後は、菅原壽副会長の閉会の言葉で締めくくり終了となった。

最後は、菅原壽副会長の閉会の言葉で締めくくり終了となった。

慶  
祝  
原稿をいただいた方を紹介します。

祝  
米寿の皆様

米寿の方は、昭和13年4月2日から昭和14年4月1日までに生まれた方です。この年の主な出来事としては、第二次世界大戦の勃発、ノモンハン事件があり、国内では国家総動員法が施行され、国民生活が厳しく統制されるようになりました。



時節うつろふ  
——日頃の断片を短歌に——  
第2-1班  
佐瀬 壽朗

おもむろに時節うつろふわがめぐり天地の撰理に怠りはなし  
隣り屋のほころぶ梅に憩ふらし声あどけなく  
うぐひすの鳴く  
庭畑に育てし胡瓜きゅうりの初物を味噌付け噛めば亡き子思ほゆ  
北天に燃え続けるとふよだかの星孫と仰ぎつ賢治を語る  
自転車のわれを追ひ越す鬼やんま羽きらめかせ夏の風切る  
親代り卒業式の保護者席遺影たづさへ開式を待つ  
生と死はなの間に横たふ老と病わが可能性をあれこれ試む



普通の人  
第13班  
浅沼 清昭

地域の皆さんと一緒に楽しく過ごしているが、或る人から、浅沼さん昔学校の先生とかやられたそうだが、そんなふうには見えませんと言われた。

そこで、ではどんな人に見えますか、と聞いたら普通の人です、と言われた。普通の人ってどんな人なんでしょう。  
普通の人で地域の皆さんとお付き合いしている毎日です。



感謝あるのみ  
第14-2班  
後藤 昌弘

北朝鮮の白頭山の麓「ウンチョウ」で生を受け以来今日まで、私は沢山の皆さんのおかげで88の歳を迎えることが出来ました。お世話いただきました皆様へ唯々感謝あるのみです。

微力ですが残る人生を皆様への恩返しに使ってまいりたいと存じます。  
慶祝会へのご案内有難うございました。



もうひと踏ん張り  
第17-1班  
千葉 廣

若い頃は米寿の人を見ると、すごい長生きをし、元気に生きてこられた方だと思っていました。

ところが、ふと気が付いてみれば、いつの間にか自分がその年になっていました。

退職後、区界高原少年自然の家や盛岡老人大学の仕事に携わってきました。  
今でも少年指導員として子ども会で工作を教えたり、地元の小学校で童話の本の読み聞かせなどを行っています。

年と共に体のあちこちに不自由を感じるようになったが、もうひと踏ん張り、出来ることには取り組んで行こうと思っています。



自然の家で  
小学生に野外指導  
第30-3班  
立花 敏勝

飯岡小学校退職後、区界高原少年自然の家で、小学生に野外活動の指導をしました。樹木や山野草の観察、兜明神岳の岩登りやキャンプ、野外炊事、冬は自然の家の事業として、スキー教室の指導もしました。子ども達が生き生きと活動し、自然にふれて感動する姿を思い出します。

その後、少年指導員として、子ども会活動や子ども会リーダー研修会の指導をしました。

今は、読書をしたり、県事業の街道調査や遺跡台帳作りの地区調査員をした時の資料を読んだりしています。米寿の祝にご案内頂き感謝いたします。



歌舞伎鑑賞

第34班

小山 尚元

若い頃、合衆国インディアナ州のホームステイで、日本の歌舞伎のことを聞かれましたが、社会科教員の私は、当時見ていなかったので答えることができませんでした。今回、機会があつて東銀座・歌舞伎座の趣のある建物の席にゆつたり座り鑑賞できました。

観衆は、日本人・外国人の数が半々程で、外国人の方々に日本の伝統文化・歌舞伎の素晴らしさを伝えられた感じがしました。



喜寿の方は、昭和23年4月2日から24年4月1日まで生まれた方です。この年は、ソ連の影響力が大きくヨーロッパ諸国に共産主義思想が広がり、西ヨーロッパ諸国は北大西洋条約機構(NATO)を設立し、中国共産党主席の毛沢東が中華人民共和国の成立を宣言しました。

日本では、物理学者湯川秀樹博士が日本人初のノーベル賞を受賞しました。



感謝

第1班  
岩田 俊雄

77歳になるのですね。

無我夢中で生きてきたせいか、あつという間の年月で、今だに実感が湧きません。教師になりたいという願いが叶い、今でも

こども園の役員を仰せつかり、就学前の子どものための優しい笑顔と元気な声に囲まれながら生活している幸せを日々感じております。これも偏に、これまで関わっていただきました全ての皆様方のご指導・ご支援のおかげだと思っております。改めて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

残された人生、我を張らず、心穏やかに暮らして参りたいと思っております。



改修工事

第2-1班  
熊谷 幸一

退職後も、相変わらず、月4〜5回のペースで東北自動車道を走っている。実家のある一関まで40年以上通り続けているからだが、一体どの位の利用になるだろう。残念ながら記録は取っていないので分からない。高速道では、一緒に走っている車の様子や、車窓の景色の変化に季節を感じて面白い。目に入ってくる情報が様々な疲れを吹き飛ばす。

幸いな事に、運転免許の更新もパスできまして、いつまで高速道を走れるだろう。

高速道では今、あちらこちらで改修(補強)工事が行われている。喜寿を迎えた今、我が身に重ね合わせると感慨深い。



喜寿を迎えて

第11-1班  
小沢 一昭

喜寿という言葉は、私にとって人ごとのように思っていたのですが、改めて感慨深いものを感じます。これまで多くの方々からたくさんのご指導、ご支援をいただきましたことに心から感謝しております。

退職後もさまざまな仕事をさせていただいたのですが、同時に体のあちこちにガタがきて現在も通院をしている状況です。

しかし、一年ごとに体の衰えを感じながらも、体が動けるうちは頑張ってみようと、書き道の仕事に携わったりゆうゆう大学の皆さんと活動したりしています。この度は、喜寿を祝っていただきありがとうございます。



恩送りができたら...

第11-2班  
吉田 妙子

母の話によると、未熟児で生まれた私を保育器も加湿器も無い中湯たんぽで温め、鍋や薬缶で部屋を加湿して育てたそうです。乳の出も悪く米のとき汁を飲ませたそうです。

「生きられるかどうかはこの子の生命力にかかっている」と助産婦さんに言われた両親の

心配は如何許りのものだったかと思いません。心配をよそに元気いっぱいに育った私は、大きな怪我や病気もなく喜寿を迎えました。これもひとえに両親をはじめ、沢山の方々のお陰と心から感謝しております。お世話になった方々へ恩返しすることはできませんが、せめて恩送りができたらと思っております。



プチ チャレンジ

第12班  
川村 久子

33歳の時父の分を生き、58歳になった時母の分を生き、と思った。両親の寿命以上を生きていくことがせめてもの親孝行と思ってきた。喜寿を迎え、今までご指導ご支援をいただき見守ってくださいました多くの方々に感謝しています。

今を大事に、無理をせず楽しみながら年を重ねていきたいと願い、初めてのことを試みています。運動が不得意でもボッチャ・シリリハ体操・フィットネス通いなら私でもできています。日本の世界遺産制覇ができ、日本遺産の魅力・美しさに感動しました。更に視野を広げていきたいと思えます。期待感と緊張感を楽しみに次の初めてを探してみます。



支えられて喜寿

第23班  
菊池 市高

この度は、喜寿のお祝いの案内をいただき

ましてありがとうございます。

今は、農家を継いで、体力づくりのために鹿や猪との格闘に知恵を絞りながら、野菜作りの毎日です。「野菜は足音を聞いて育つ。」とも言われますが、土を踏むことに充実感が湧きます。

かつて、勤務校が市の適応指導教室に近かったこともあり、調理実習のために野菜を提供していましたが、退職後も10年余り続け、子ども達に「そうめんカボチャが一番楽しかった。」と言われました。今年、その当時に子に会った際、調理実習の話がされたので、暫くぶりにそうめんカボチャを栽培しました。



今日を生きる

第28班  
四井 謙吉

人生の一つの大きな節目となる喜寿を迎えました。年齢を重ねると、予想しなかった人生上の課題に遭遇することにもなります。そのような課題にどう向き合うか自問自答しながらの生活を送っています。

先日、私が好きで視聴している番組のBS日テレ「小さな村の物語イタリア」の中で、北イタリアに住む高齢男性の言葉に共感を覚えました。その言葉とは、「今日を生きよう。明日を憂いて今日の自分が壊れたら意味ないよ」というものでした。私もこれからの人生の旅路を、「今日を生きる」を念頭に日々を過ごしたいと思います。



喜寿を迎えて

第28班  
成田 春江



退職した次の日から幼稚園勤務。教育振興、適応指導などにも携わり、幼児、児童生徒、保護者、地域の皆さんといろいろな活動を通して交流ができ、大変有意義な時間を過ごしました。

今は、熊を気にしながら近くでウォーキング、趣味的な小物作り。コロナ禍で一時中断していたスキーを久しぶりに滑る予定です。また、町内会役員として少しでも協力できればと行事・見守り活動にも取り組み中です。今までお世話になりました皆様に感謝の気持ちを忘れずに過ごしたいと思います。



喜寿を迎えて

第31-2班  
高鷹 賢司

退職後、公民館、児童センター、町内会役員など先輩方同様に勤めました。

今は高校時代の友人などと、月2、3回程のゴルフを楽しんでいます。又、健康のためできるだけ歩くように心がけています。主に北上川の河川敷を歩いていましたが、近年の熊の出没により、時間や場所などあれこれ考えているところです。家では、庭に咲く花に季節を感じ、暇をみて産直めぐりをすると、この度は喜寿を祝って頂き有難うございます。



『人の短を語らず、己の長を説かず』

第24班 磯田 望

この度の春の叙勲に際しまして、拝受の栄に浴することとなり、改めて身に余る光栄と恐縮いたしております。これまでご指導ご支援をいただきました諸先輩をはじめたくさんの方々へ感謝の気持ちで一杯です。退職後は文化振興事業、社会福祉事業に関わらせていただき、10年間の勤務を通してたくさんの方と学ばせていただきました。先人教育の大切さ、地域連携の在り方など、新しい発見もありました。



『感謝』

第24班 相模 貞一

叙勲の栄に浴し感謝の気持ちで一杯です。38年間の教員生活を健康で仕事できたことは幸いです。この間、多くの方々との出会いがあり、沢山の学びをさせて頂いたことは幸せなことでした。



「感謝でいっぱい」

第11-1班 小岩 和彦

生まれ里は陸前高田市です。教員生活の最後は帰りたいと願っていました。しかし、宮古の勤務校の時に大震災が被災し、帰るべき家が瓦礫と化し、懐かしい多くの方々との別れがありました。陸前高田市の住宅地の造成まで9年間を要しました。盛岡市に住むことを決断し、現在に至ります。今後とも、叙勲の栄に恥じぬよう感謝の気持ちで過ごして参ります。



教育に携われたことに感謝

第30-4班 山内 昭

この度の秋の叙勲の栄に浴することになり、誠に恐縮しております。自分の教員としての人生を振り返ってみると、それぞれの時代に常に良き先輩・同僚の皆さんからご指導・ご支援をいただきながら何とか過ごしてきたと感じております。本当に感謝の気持ちしかございません。ありがとうございます。今後とも、自分にできることを考え過ごして参りたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。

令和7年度秋の叙勲の栄に浴することになり、身に余る光栄と恐縮いたしております。



関係者の皆様へ感謝

第35班 吉川 健次

教員生活では、小学校、中学校、教育事務所等に勤務させていただき、多くの児童、生徒、保護者、地域の皆様と出会い、共に活動し、また、すばらしい上司、先輩、同僚の皆様へ恵まれ、多くのことを学ばせていただいたことは、私にとってかけがえのない貴重な経験であり、教育に携われたからこそその財産です。教育に携われたことに感謝しながら、少しでも地域社会に恩返しできるように健康に留意し、精進してまいりたいと存じます。ありがとうございました。

令和7年、秋の叙勲「瑞宝双光章」を受章しました。11月12日(水) ホテルニューオータニで伝達式があり、その後、皇居に参内し歴史ある豊明殿で天皇陛下から御言葉を賜りました。記念写真は内閣集合写真と同じ南(北)溜の階段のホール。一生に一度の栄えある勲章と勲記には重みを感じられました。今まで吉川健次を育ててくれました関係者全員に感謝を申し上げます。今後は、健康に気をつけ、岩手の皆様へ還元できることを継続したいと思います。



# おしらせ板

祝 令和7年度の  
叙勲 瑞寶双光章

受章、おめでとうございます。  
心からお祝い申し上げます。

◎春の叙勲  
磯田 望様 (第24班)  
相模 貞一様 (第24班)

◎秋の叙勲  
小岩 和彦様 (第11-1班)  
山内 昭様 (第30-4班)  
吉川 健次様 (第35班)

## 1 ■令和7年度第2回班長会

日時 令和8年3月7日(土)  
午後3時半〜4時45分

会場 岩手県公会堂

- 内容
- (1) 令和7年度事業の実施状況について
  - (2) 班組織の確認と班長活動費について
  - (3) 令和8年度会員名簿の作成について
  - (4) 令和8年度会費の納入について
  - (5) 令和8年度県本部・盛岡地区会定期総会について
  - (6) 令和8年度県定期総会代議員の選出について
  - (7) 今後の「平和を考える絵本プロジェクト」の推進について
- 懇親慰労会は、午後5時から北ホテルで開催予定です。

## 編集後記

新年のお慶びを  
申し上げます。



「盛岡会だより」は今号で228号を迎えました。今後とも常に新しい気持ちで編集に努めて参りたいと思います。  
さて、米寿・喜寿を迎えられた多くの皆様そして叙勲の方々から原稿を頂戴いたしました。皆様の充実した日々が想像され、私たち後輩の目標となりました。皆様がお元気に過ごされている様子を喜びますと共に、これからも上寿・米寿・喜寿をお祝いしたいという思いで読ませていただきました。ありがとうございます。

巻頭言「頂いた財産を活かす」NIEからNIDへ」は川村久子先生が長年積み重ねられている「新聞教育」が学校教育から生涯学習へとつながり、シニアの学ぶ意欲が自身の生きる活力にもつながっている好循環を強く感じました。玉稿をいただき、感謝申し上げます。  
今年、60年に一度の「丙午」にあたり、強いエネルギーで物事を切り開く躍動感にあふれる年だと言われています。  
会員の皆様が心身ともに健康で幸福感に満ちたウェルビーイングの毎日をお過ごしになりますよう祈念申し上げます。